

大きく変わる学校

クラス制再編、「K-S T E A M」

工学院大学附属中学校



工学院大学附属中学校・高等学校は1897年に設立された工手学校がそのルーツで、1944年に工学院工業学校を設置、戦後の学制改革で工学院大学中学校・高等学校になりました。工業色が強く、中学校の募集を停止した時期もありましたが、1992年に工業系の学科を廃止、1996年から中学校を再開、2002年には男子校から共学化して中高一貫の進学校になりました。2015年からグローバル化対応の教育改革を強力に進めていて、さらなる進化として2022年からクラス制を再編、「K-S T E A M」として、グローバル・リベラルアーツと数理情報工学を融合した先進教育に取り組みます。

1. 近年の教育活動の成果

工学院大学附属中学校・高等学校はいち早く1人1台のタブレット端末やノートPCの環境を実現した学校の1つで、中学生はタブレットでしたが、扱う情報量が増えたため、2021年の新入生からは中学生もノートPCになりました。生徒たちも操作に慣れていることから、2020年のコロナ禍での学校休校時もスムーズにオンライン授業に移行しています。

P I L (対話型授業)やP B L (問題解決型学習)の実施も早く、教員が正解を伝えるのではなく、生徒同士の能動的な議論を通じて理解を深め、正解のない問題についても、生徒同士のグループワークから解決策を生み出すことで創造性や批判的思考力を培ってきました。英語力の強化にも力を入れていて、週6時間の英語の授業でC E F RでのC1(国際標準の英語力基準、英検1級相当)の習得をめざし、海外研修や長期・短期の留学も活発になりました。

こうしたグローバル標準の教育内容で、アジア諸国の課題解決プロジェクトや模擬国連への参加などの実績から、日本初の「Cambridge English School」日本唯一の「Cambridge International School」に認定されていて、国際私学連盟「Round Square」にも加盟しています。

2. 「K-S T E A M」

高度情報化社会を迎え、S T E A M(Science・科学、Technology・技術、Engineering・工学、Arts・リベラルアーツ、Mathematics・数学)教育の充実が

求められています。本校でも3Dプリンター、3Dスキャナーやロボット、VR機器などをF A Bスペース(ものづくりを楽しむ図書館内の一角)などに配備、プログラミング講座やワークショップを定期的に開催するなど、積極的に取り組んでいますが、今後はさらにバージョンアップした、工学院らしい先進的教育を実施します。それが「K-S T E A M」です。

工学院大学との連携をさらに強め、大学のリソースをフルに活用し、大学教員の指導による探究論文作成、科学教室や大学実験ラボの実施、また、大学のソーラーカーチームと連携した自動車部の活動などを行っています。

3. 新たなクラス制

2021年度入試までは、ハイブリッド特進理数、ハイブリッド特進、ハイブリッドインターナショナルの3つのクラス(高校ではコースにつながる)でしたが、「K-S T E A M」に取り組むことから、2022年度入試からはハイブリッド特進理数クラスとハイブリッド特進クラスを融合して先進クラスとします。高校では先進文理コースに進みますが、さらに深くサイエンスに取り組みたい生徒向けに、高校2年生からスーパーサイエンスクラスを設置します。

海外帰国生や、高度な英語力を持って入学する生徒向けのハイブリッドインターナショナルクラスは、インターナショナルクラスと改称して、従来同様、海外大学も視野に入れた進学目標の実現に、今後も取り組んでいきます。